

鳴海周平の

ぶらり旅

長野県 戸隠・善光寺編

「来年の旅は、戸隠とかわいいかもね」
昨年の旅先・佐渡島での、はせくら
みゆきさんのひと言で決まった今回
の旅。
恒例の旅友・高島亮さん、はせくら
みゆきさん、ひすいこたろうさんと
一緒に、日本一ともいわれる門前
町があり、豊かな自然にも恵まれ
た長野県の戸隠と善光寺を訪ねま
した。

参道入り口から400mにわたって続く石畳は300年ほど前のもので、その敷石の枚数は、なんと！7777枚。
善光寺の仲間世通りを歩いているだけで重がつきそう(笑)



前立本尊と「善の綱」で結ばれた回向柱に触れると、前立本尊に触れるのと同じ功德を授かることができるそう。せっかくなので、しっかり抱きついてきました。



境内の滝にかかった虹のはし。



茅葺屋根の隋神門。草がフサフサな夏バージョンで迎えてくれました。

奥社、中社、宝光社、九頭龍社、火之御子社からなる戸隠神社の創建は紀元前210年。どのくらい古いかというと、とっても、すごーく、古いってこと。平安期には修験道の霊場でもあったそうです。

「天の岩戸を力いっぱい開いたときに、その岩戸が落ちた場所なんだって」

「天の岩戸伝説って、たしか九州でしょ？かなりの距離を投げたんだねえ」

「神話には『日本のだいたい真ん中に落ちました』って書いてあるみたい」

「あつくり〜(笑)」

などという会話をしていると、往復約1時間半の道のりもあっという間。

奥社入り口のそばにある、戸隠名物のそばも美味しくいただきました。

こちら飛鳥時代の創建という長い歴史をもつ善光寺。

百済から伝来した日本最古といわれる仏像を、本田善光よしみつさんがこの地へお連れしたことが名前の由来。宗派ができる前に創建された無宗派のお寺なので、現在は天台宗と浄土宗が共同で護持しているのだそうです。

宗派を問わず、どんな人をも受け入れてくれる懐の深いお寺なんです。

「牛につられて善光寺参り。お！牛さん発見。撫でちゃおーっと」

「なんだか、お腹空いたなあ…あ、長野名物のおやき発見！」

「甘いものも欲しくなってきたね。わー！甘酒屋さんだー!!」

「歩いたし、お腹いっぱい…眠くなってきたから、帰ろうか」

こんな自由な人ばかりでも、懐が深いお寺は、きっと優しくみまもってくれていることでしょう(笑)



旅友の御三方と。このたびも楽しいひと時をありがとうございました!!



仏様の化身ともいわれるお牛様を撫でて、甘酒とおやきをいただくという善光寺フルコース(笑)



爽やかなエネルギー溢れる杉並木は、県の天然記念物にもなっています。